

平成19年度 施策評価表

所属 02040000

政策経営部 企画課

施策	0003 ユニバーサルデザイン						
区分							
対象	すべての区民や事業者・開発者						
施策意図	すべての人にとって快適で使いやすいデザイン・しくみが随所に取り入れられている						
現状と課題	今までは、高齢者や身体障害者を対象とし、ハード面（施設整備）でのバリアフリー化に重点が置かれていた。今後は、ハード面にとどまらず、「学校教育」の場での普及・啓発などのソフト事業を含めた施策を展開し、暮らしやすい街づくりを推進していくことが求められている。そのためには、ユニバーサルデザインに対する意識向上が重要である。						
成果指標	成果指標1：歩道勾配の改善率（改善路線延長÷計画路線延長（20km）） 目標 平成21年度 62.0% 成果指標2：ユニバーサルデザインが普及していると思う区民の割合（マーケティング調査）目標 平成21年度 14.6%						
目標達成状況	成果指標1 [%]	予定	平成17年度 36.00	平成18年度 38.00	平成19年度 47.00		
		実績	33.00	38.00			
	成果指標2 [%]	予定	11.60	11.90	12.80		
		実績	13.30	10.70			
	成果指標3 []	予定					
		実績					
	トータルコスト (千円)	予定		75,280	208,386		
		実績	152,661	75,101			
	施策の位置付け	区の関与度合	区と住民等との協働。ユニバーサルデザインの考え方を基本とした区の施策を推進し、区民や事業者等の責務を明らかにして、住民と一体となったまちづくりを実現していく。				
		区民ニーズへの貢献	ある程度に留まる。現時点で、普及していると思う区民の割合は低いが、今後住民等との協働により、すべての人にとって快適で使いやすいデザイン・しくみを取り入れて行く。				
成果向上の必要性		向上必要。今後は、はじめからあらゆる方法でバリア（障壁）を生み出さないことにより、すべての人にとって暮らしやすい環境をつくっていくことが必要である。					
成果向上の容易性		容易ではない。改善の積み重ねによりデザイン・しくみの完成度が高まり、利用者の利便性が向上する。区民・事業者・職員の意識改革を図り、時間をかけて取り組む必要がある。					
位置付け総合評価	継続。これまでは、高齢者や障害者などに対するさまざまなバリア（障壁）を取り除く、いわゆるバリアフリーの視点から整備を進めており、すべての人にとって快適で使いやすいデザイン・しくみづくりというユニバーサルデザインの普及はこれからである。今後は、19年度に策定した「葛飾区ユニバーサルデザイン推進指針」に基づき、職員向け研修や区民向け講座を行うなど、葛飾区全体にユニバーサルデザインに対する理解が深まるよう取組みを進めて行く必要がある。						
施策目的達成のための事務事業	事業コード	名 称			トータルコスト(千円)	総合評価	
	000301	鉄道駅エレベーター等整備費助成			0	5	
	000302	民間建築物バリアフリー化整備費助成			5,231	5	
	000303	ハートビル法審査認定事務			900	5	
	000304	歩道勾配改善			67,170	5	
	000305	交通バリアフリー基本構想策定調査委託（交通バリアフリー事業）			1,800	5	

【総合評価】6=拡充/5=継続/4=改善/3=再構築/2=縮小/1=廃止・休止/0=今回評価なし

コスト分析表

年 度 平成19年度

所 属 02040000

施 策 0003

政策経営部 企画課

ユニバーサルデザイン

期 間 平成17年度 ~ 平成19年度

(単位：千円)

		NO	平成17年度	平成18年度	平成19年度		
予 定	財源内訳	国庫支出金	(1)		0	0	
		都道府県支出金	(2)		15,335	76,742	
		地方債	(3)		0	0	
		その他	(4)		0	0	
		一般財源	(5)		58,325	130,419	
	直接費	事業費	(6)		58,000	192,111	
	職員人件費	人件費	(7)		15,660	15,050	
		再雇用職員分	(8)		0	0	
		(職員数：賦課)	(9)		1.80	1.75	
		(職員数：配賦)	(10)				
		職員数合計(9)+(10)	(11)		1.80	1.75	
	調整額	間接費	(12)		0	0	
		(加算)減価償却費	(13)		0	0	
		(加算)金利	(14)		0	0	
		(加算)退職給与引当	(15)		1,620	1,225	
		(控除)コスト対象外	(16)		0	0	
		(控除)雑収入	(17)		0	0	
		調整額計 (13)+(14)+(15)-(16)-(17)	(18)		1,620	1,225	
		トータルコスト (6)+(7)+(8)+(12)+(18)	(19)		75,280	208,386	
実 績	財源内訳	国庫支出金	(20)	1,000	0		
		都道府県支出金	(21)	41,884	13,611		
		地方債	(22)	0	0		
		その他	(23)	0	0		
		一般財源	(24)	107,707	60,230		
	直接費	事業費	(25)	131,501	58,901		
	職員人件費	人件費	(26)	19,090	14,940		
		再雇用職員分	(27)	0	0		
		(職員数：賦課)	(28)	2.30	1.80		
		(職員数：配賦)	(29)				
		職員数合計(28)+(29)	(30)	2.30	1.80		
	調整額	間接費	(31)	0	0		
		(加算)減価償却費	(32)	0	0		
		(加算)金利	(33)	0	0		
		(加算)退職給与引当	(34)	2,070	1,260		
		(控除)コスト対象外	(35)	0	0		
		(控除)雑収入	(36)	0	0		
		調整額計 (32)+(33)+(34)-(35)-(36)	(37)	2,070	1,260		
	トータルコスト (25)+(26)+(27)+(31)+(37)	(38)	152,661	75,101			

施策名	ユニバーサルデザイン
-----	------------

担当課： 企画課

施策の達成状況

【達成度評価】

歩道勾配の改善などハード面の整備については、着実に進んでいるにも関わらず、ユニバーサルデザインが普及していると思う区民の割合が、前年度に比べ、低下している。
今年度策定した「葛飾区ユニバーサルデザイン推進指針」に基づき職員向け研修や区民向け講座を行うなど、普及・啓発に重点的に取り組んでいくことで、効果を上げる余地はある。

構成事務事業の次年度方向性

【次年度方向性の考え方】

ユニバーサルデザインの普及においては、構成事務事業を継続して実施していくことが必要である。また、職員、区民、民間事業者等に対する積極的な普及・啓発・情報提供を行い、ハード・ソフトの両面から取組みを進めることで、全ての人が暮らしやすさを実感できる街づくりを推進する。